

が九州方面日本地方の一部で、今社建築の日本も生きてゐる。この若い層は、伝統式であることは、外國の氾濫の今日、日本古来思想をもつてゐるかも知れない。然し、農耕村辺の地域のヨシなどでは、古の間で堂々と使われている。とこもたれるところではなく、生き続っているのである。

釘と木手でさえ容易で、なかつた絶壁や、古の城壁の再起用も、「バチカブルグ」の連発を見て、しなればならなかつた。そんな時、古の頃固さういふのは、滅きざるが、その頑固な伝統を生きかす力が宿してゐた。大衆にしては、綿香の香煙ただよう庫裡だつともなる。

論誌

力ブルゾ



宗像郡大島村の新設波止場に斎場を作り、七月一日から大島と神湊（同郡玄海町・海上およそ九キロ

大島からの夏便り
フエリー「おおしま」就航

こんな地域の行政に当る町村長が選ばれる者が増加してきた。それ 始め宣導はバチカン式の古風で、まだ先方に居住する者も増加して と、これまでが本国で居住する者も増加してきた。それらの間にあって、一件落着までは 文字通り夢話ではない。國家の行財政事情が敵対的状況にある時、各 番の間にあって、何事かはまだ現地であります。日本国外では、さうなわけである。日本青年は、まだ先方に居住する者も増加して て聞かれる集会は喧しい。

五十六年度の監察業務として、ある。これに町村役場の関係者 行財政の実効率化、国民生活への貢献度の点検、サーサニ 政事務官の監査の点検、國は勿論のこと、日本に来てから 改革の推進、地域社会との連携など、細やかに掲げられているのが、 その中から、特に住民の声を聞き、意見を聞く。特に住民の中から、 環境が悪くて住まぬとの呼び声を、大々的に反対のために、日本に が揚がるのに対しては、行政関係者が強制したわけではなく自らそ んな地域の行政に当る町村長が選ばれる者が増加してきた。それらの間にあって、何事かはまだ現地であります。日本国外では、さうなわけである。日本青年は、まだ先方に居住する者も増加して て聞かれる集会は喧しい。

五十六年度の監察業務として、ある。これに町村役場の関係者 行財政の実効率化、国民生活への貢献度の点検、サーサニ 政事務官の監査の点検、國は勿論のこと、日本に来てから 改革の推進、地域社会との連携など、細やかに掲げられているのが、 その中から、特に住民の中から、意見を聞く。特に住民の声を聞き、 注意を引く。特に住民の中から、と云ふ。外人多数の中にはわざわざ 来るアルカ反対のために、日本に

の環境を是ほど、居住している。牛馬などんな絞りて食つても、スタントの別も意識されぬに、何の言ひばかりか反論した。よい、との論法が日本には納得然なる様相を呈する。いふなり云ふ事ある。庶民樂の伝統の相、巴チカブルンは通用しない。ゆきかねる。

長、河辺治の起爆剤にしたい」と期待され

開港場就役の新造フェ
メートルの方雷の拍手聲で、第一
列「おおまき」、「九五・六ト
ム」と大島鷹一ミニマル、司機
施設、並びに小中学校水泳プール
建設の総合「おおしま」は、一九五・六
完成竣工祭。三百馬力エンジン三基、速力
が震動盛大十三・五ノット(約二十四キロメ
ートル)。乗客定員五百名。搭
載車両四トン積用、二千五百台。
普通乗用車なら、八台。朝夕の
當日は、
載車両四トン積用、二千五百台。
普通乗用車なら、八台。朝夕の
一日は、

同村立小学生による鼓舞演奏と同
村幼稚園児等が七色の風船を飛ば
しお祝いをした。参列者は観客であ
る。

神長、菱東
結婚式場用品 株式会社 井筒

九州店 福岡市博多区東公園二丁三一(平三三)
電話福岡(050)六五一九四(五六番)
京都平野通小路一条北入(平二三)
電話京都(075)五二二三四(代一二番)
五二二三五(代一二番)

同村議會議長ら二名より可動橋
前で真新しい紅白のアーチカット
がなされた。同時に雨蓋を追い去

ている言葉が印象残つて、
輸送力の増大を旅館、
食店等では歓迎してゐる
が、その半面で、般若町の
で悩むのは、交通事故故の
心配、自然の破壊等が村人
である。

ともあれ、風光明媚な
由緒ある歴史をもつて居
村民一丸となつて持続的
よい生活環境、心静

宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社会
福岡県宗像郡玄海町
電話 0946-213111代
年額 一年送料共 1,000円

暑中御見舞申し上げます

出光興産株式会社福岡支店

支店長 松 山 嘉 三

福岡市中央区大名2丁目8番26号

出光興産株式会社門司支店

支店長 糸 永 文 雄

二代に亘る敬神の誠

芳賀善廣氏



去る六月十六日、当社社説にて、予て念願の石燈籠奉納を當社へ申出された。当社には折角の寄付で、その間風化してボロボロになつた。泰賀者北九州市八幡東区中央町方ビル総業社長、芳賀善廣氏で、一昨年十一月三日、秋の祭典で鹿等瑞應賞を記念し、り立ちに建立して頂くことになつた。

同燈籠は「トン」を越す重量のため、基礎工事には充分注意を払い、基礎を設け、クリートを敷き、地中掘をして、クリートを組み、その上に鉄筋を更に組み、コンクリートで仕上げ、この上に高さ三メートル、底部辺が一・ハーメートル、火袋の四メートル、角、笠石一辺が一・メートルの大きめの白い燈籠が組立たれた。燈籠中心部が取り抜かれており、後日配線工事が完了すれば當夜点灯して使用できることと想される。石材は山口県徳山市大津島の徳山石で、施主は徳山市石店中村藤次衛門である。

芳賀善廣氏の父君芳賀元氏は、昭和十七年萬國貿易会席を記念して、現宗像市呂古瀬熊東郷駅東口県道に石の大鳥居を建立された。(後道路強のため、神楽の当社屯田參道口移築)

敬神家である芳賀善廣氏は、父君に賜ひての度の白い燈籠を奉納した。大鳥居の施工者は花の中村藤次、藤次代に亘る自出だしたものと衡氏で、今回の奉納、施工者寄しくなつたのも、御神縁によるものかもしれない。

まとももある。妻家の外裏

千家があるのか、妻家の外裏

に入学させるのは起まい。堂々

も妻千家妻千家がそれぞれの伝統を保つ。これにも南坊という流

せの入試、まことに書記が登場

儀があつて、表にも裏にも属さない

い夢を詠えたり、落葉の水滴

をもじって表にも裏にも属さない

家、正流など書き込んだ看板も珍しくな。

近時生機械化が、薬草、武術、製織などの矜持として、表飾を

入りて、熱心に修業する姿を取

りはじめて、熱心に修業する姿を取

りはじめて、熱心に修

